

平成27年度 第2回 山梨県文学館協議会 会議結果記録

日 時： 平成28年3月3日(木)

場 所： 県立文学館研修室

参加者：

委員 渡邊慈仁、堀内美恵子、蔦木雅清、向山文人、植松裕二、新橋靖典、
池田尚隆、小菅健一、廣瀬孝嘉、中島葉子、早川史香、日向俊子、
清水千春

県教育委員会 深澤教育次長、小澤学術文化財課長、古屋学術文化財課副主幹
県文学館 三枝館長、酒井副館長、小俣学芸幹、大関総務課長、高室学芸課長
土橋資料情報課長、名取総務課主査、保坂学芸員(学芸担当リーダー)、
梶原教育普及担当主幹教育主事、水上資料情報課副主幹

指定管理者 岩野SPSやまなし支配人、金原SPSやまなし副支配人

議事

- (1)平成27年度事業実績について
- (2)平成28年度事業計画について
- (3)その他

議事録

県教育委員会教育次長挨拶

会長挨拶

館長挨拶

事務局職員紹介

事務局から会議資料により、議事(1)～(2)を説明

会長

ただいま、事務局から、学芸、教育普及、資料情報、指定管理のSPSやまなしの活動について、また、外国人対応について、説明がありました。

順不同でも結構ですから、質問、意見、感想などありましたらお願いします。

C委員

教育普及事業の校内文学館はよいことだと思うので、推進に努めていただきたいです。私はNPOの活動をしてモンゴルと関係がありますが、小学校の教科書に「スーホの白い馬」という話が載っていて、小学校の先生が私のところに来て、モンゴルか

らのお土産を見せてくださいというので貸してあげました。帽子とか陶器とか向こうの生活習慣が分かる絵画とか見せたところ、子供たちがとても喜んで、私のところにも、よかったという感想がとどきました。本読むだけでなく、実際、話の中にでてくるものを見ると、新しい発見があり親近感がわく効果がありますので、校内文学館の事業をさらに進めていただきたいと思います。

会長

文学の楽しさを体感できるような工夫をしていただきたいと思いますというお話でした。他にどうでしょうか。

D委員

私も校内文学館に関するお願いと質問です。校内文学館という事業は今年度からか始めたのでしょうか。

事務局

はい、そうです。

D委員

文学館に親しんでもらえるように、引き続き進めていただきたいと思います。それから、難しいとは思いますが、例えば、太宰治の走れメロスを取り上げるときは、富士河口湖町や御坂の学校から、山本周五郎は大月市の学校からというように、身近なところから始めるのがよいのではと思います。

会長

身近なところから裾野を広げていくと効果的という具体的な提案でした。その他ございませんか。

E委員

今年度事業の報告と来年度の計画ということで、見せてもらった感想を述べます。新収蔵品展ですが、これだけのものが無料で見られるというので、私も勇んで拝見しました。中には高室課長のおじいさんの資料もあって大変貴重だと思いました。次に閲覧室の「映像になった文学作品」ですが、大変古い脚本があったり、すごいなとも思うのですが、場所が狭いせいか、資料の数が少ないのが残念です。もう少し幅と奥行きがあったらいいと思いました。例えば、川端康成の、「伊豆の踊子」など何度も映画になった作品は、多くの女優が出演しているので、そういうような見せ方もあるでしょうし、松本清張の作品がほとんど無かったのも残念でした。松本清張の作品は、山梨が舞台になったものがありますし、その他の作品でも、山梨が舞台になったものがあるので、それを展示するのも効果的かと思いました。

それから、7月に産経新聞社の与謝野晶子短歌大賞表彰式があるとのことですが、弊社でも与謝野晶子にゆかりのある県内の場所をとりあげた番組を放送したことがあります。春鶯囀とか昇仙峡とか上野原とか、晶子ゆかりの地について、表彰式に来た方に、晶子の関連がわかるような資料の配付とか展示を行っていただきたいと思います。

外国人対応の案内表示をするとのこと、先ほどの説明では、文学館の来館者は99%

が日本人とのことですが、実際どのくらいの外国人が来館しているのでしょうか。外国人に文学館に来てもらうためには、かなりの努力・工夫というか企画が必要と思いますが、その点についての考えを聞かせてください。

最後にPRについてですが、これは私どものPRになってしまいますが、弊社では、1月から夕方4時53分から5分間、ウッティタウン6丁目という情報番組を放送していきまして、甲府駅南口で、無料の展示会を紹介するコーナーを設けていますので、是非使っていただきたいと思います。

会長

見せ方の問題に関する意見や、番組を無料でPRに使ってはとの応援メッセージもありました、外国時対応については、質問もありましたが、事務局いかがでしょうか。

事務局

ウッティタウン6丁目で新収蔵品展のPRするため、UTYの担当者とは、既に調整しています。大変お世話になり、ありがとうございます。今後ともよろしく願います。

見せ方の問題については、閲覧室だけでなく、展示会場も含め文学館全体の課題と思います。幅広く奥が深くは、まさにそのとおりでして、文学館は、敷居が高いという指摘もありますが、幅広い年齢層の方に、気軽に来館してもらえるよういろいろ考えて努力しています。委員の皆さんの知恵を貸していただきたいと思います。

与謝野晶子関連の企画は、夏の常設展の中で、何か出来ないか考えています。産経新聞には、山梨の観光パンフを配布してもらうことも考えています。富士山だけでなく、いろいろ見るところがある、晶子ゆかりの地もいろいろある、夏ですから、おいしい果物もある、ほうとうもあるというようなことをPRしたいと思います。

事務局

外国人来館者数のデータは文学館にはありません。美術館で以前に、受付で来館者の顔を見てカウントする調査を行ったことがあります。1%に満たない結果でした。文学館はさらに少ないと思いますし、感覚的にはほとんど外国人来館者はいない状況です。案内表示等の英語表記やピクトグラムの表示は、確かに外国人向けですが、この事業は、ほとんどの来館者である日本人が快適に館を利用できることも視野に実施しています。外国人来館者が今後どの程度増えるか分かりませんが、このような状況ですので、現時点で、外国人に来ていただくための取り組みはありません。今後、外国人来館者数の推移を見ながら検討するとさせていただきます。

会長

美術館と文学館とは違うということです。美術館は作品を観て感動してもらう。文学館は、作品を読んで感動してもらう。これからは、確実にグローバルな時代になっていって、外国人がすぐそばにいても不思議ではない時代がくるであろう。英語が世界共通語になるでしょうから、日本人も日本語の他に英語ができて、もう一つ他の外国語もできるという時代が来るのではないのでしょうか。最低必要な案内の表記、デザインというものを考えていくことになると思います。

L委員

先日、新収蔵品展を見に行きました。大変貴重な資料であり、時間を経つのを忘れ

て拝見しました。これだけの資料はだまっても集まりませんので、館の職員が関係者、作家の遺族たちと信頼関係を築いていく中で、寄贈や寄託を受けているのだなと思い、大変感動しました。文学館は、いろいろなイベントを企画することも大切ですが、やはり資料が命だと思います。これからも貴重な資料の収集に努力されますよう期待します。

会長

文学館は資料が命ということで、限られた予算ではあるが、資料集めをしっかりとってもらいたいという意見でした。新しいものとの出会いには、感動や発見があります。大村先生が、一期一会とおっしゃっていますが、人との出会いだけではなく、作品との出会いからも、いろいろと広がっていくのだと思います。

J委員

事前にいただいた資料を見て、前回と同じく若い人たちへの働きかけが少ないのではという印象を持ちました。私は勉強不足で、先ほどの説明では、昨年、津島佑子先生が高校生を対象として、対話しつつの講義をされたと聞いて、それは大変よいことだと思いました。また、先ほどから話に出ている校内文学館などもいいと思うのですが、児童文学というよりもちょっと上の、ヤングアダルトとか20歳代とかの人たち向けのというと、先ほどの「資料が命」という意見に逆らうようで申し訳ないのですが、資料ではなくて、今の文学で、若人たちが読みたくなるような、ネットとかと同時進行でもいいんですが、目を向けてもらえるか考えてもらいたいと思います。

ヤングアダルトは、委員の小菅先生は専門家ですし、今日配布されたチラシにある来年度の年間文学講座の講師である、牛山先生は子供の文学が専門ですから、そういう方が、若い人に話をするとか、教師や司書の先生と、若い人たちへの接し方について意見を交わすとか、資料だけでなく、そういう取り組みをやっていただきたいと思いました。

N委員

今のJ委員の意見に、国語の教師や司書との関わりが出ました。それに関連するかもしれませんが、私は中学校の教師なので教育普及の事業にはとても関心があります。資料10ページに教育課程で約3,000人の児童生徒が利用していると記載がありますが、待っているだけでは、文学館は敷居が高いとか言われているので、出前授業や校内文学館などを増やしていくには、やはり、司書教諭や図書館司書に情報提供して、文学館と連携するとこんな素晴らしいことができると、働きかけていくことが重要かと思いました。

昨日、校長室を掃除していたら、昨年度の校長が国語教師だったもので、中学校の授業で使う国語便覧という副読本が見つかりました。最初の12ページを使って山梨ゆかりの文学者を紹介していて、これはすごい資料だと思い、国語教師に聞いたところ、便覧は2種類あり、山梨ゆかりの文学者を紹介している方は、山梨の国語教育研究会が、そのページを作っているが、もう1社の便覧には、そのような記載が全くないそうです。ではどちらがよいかですが、もちろん前者を教師が選ぶことが、子供たちに山梨に関係する文学のすばらしさが自然に伝わると思います。ですから、子供たちが文学に関心を持つことに最も身近にいる、小中高の教師に情報提供をして、博学連携を進めることが重要かと思いました。

会長

平成元年の県立文学館が開館した当時、芥川龍之介の作品がたくさん展示されると聞いて、こんなチャンスはないので、何とか生徒を文学館に連れて行くことができないかということで、校外授業と称して、2年生が9クラスだったので、3クラスずつ、3班に分かれて実施したことを覚えています。こういうことは1回で終わっては意味がないので、教育課程として、1年生の授業で校外授業として位置づけて、芥川の研究を生徒自身にもさせていくということを企画しました。

先日聞いたところ、今でも引き続き実施しているということでした。やはり教育課程に位置づけて学年行事として実施すると、継続するのだなと思います。

A委員

子供たちへの教育普及への取り組みありがとうございます。今、学校現場では英語教育に力をいれていますが、それよりも、先に美しい日本語教育が必要です。作家の手書きの資料をよく見ることで、本当の姿が見えてくるわけです。子供たちへの啓蒙、教師たちへの周知、私たち教育委員会への呼びかけなどにより、郷土山梨を愛することにもつながることと思います。私は富士吉田から来ていますが、間に御坂峠がありますから、太宰治の「富士には月見草がよく似合う」の話もあります。

また、私は書道教師もしていますが、ちょうど今、県立美術館の県民ギャラリーで、山梨書道協会、山梨書道会などで展示会をしています。山梨ゆかりの書家、文人、足立疇邨とか内藤香石、渡辺寒鷗などの作品が常設展示されていますと、私たちの展示会に来た人が、ちょっと寄ってみようかということもあると思いますので、そんな効果もあるのかなあと個人的に考えてみました。

会長

ここに来ることによって、子供たちは、教室では経験できないことを垣間見る、そして、若い感性が触発されて、何か書いてみようかとなり、新しい芽がでてくることもあるだろう、文学館にはいろいろな資料があるので、関連するものも展示してはもらいたいという意見だったと思います。

I委員

一般公募の委員として、いろいろ提案したいことがありましたが、ほとんどは既に実施されていることが分かりました。逆に言いますと、知らないというのは、広報が足りないのかとも思いました。資料を見ますと、広報にも努力していることが分かりますが、まだまだ工夫できることがあるのかなとも思いました。

何をどうにかといった具体的な案はないのですが、先日、県立美術館に行った後で、県立文学館にいったら燻蒸中で休館でした。美術館の方に、その案内があればよかったと思いましたが、甲府駅バスターミナルに、そのことが掲示されていて、これは効果的な広報だと思いました。他の文化施設にももっとアナログ世代にも分かる掲示を増やしたらよいのではと思いました。

私がやってほしいと考えていた企画は、こちらで既に実施している、教科書の展示なのですが、教科書の展示は手にとって見る方も多いと思いますので、例えば、「走れメロス」などは、何回も取り上げられていますから、同じ作品を取り上げた教科書を三世代にわたって展示するなどしますと、おじいちゃん、おばあちゃんが読んだ作品、パパもママも読んだ、僕も今読んでいるという感じで、家族で来館することにもつながるかと思います。教科書教材の中にある作品、小説だけでなく、評論、随筆なども掘り下げて展示する企画、また、ワークショップの開催などしていただければ、あり

がたいと思います。

会長

楽しい話もありましたが、教科書教材をもう少し見極めて、作品や作家を取り上げてはどうだろうかという意見ですね。他にいかがでしょうか。

G委員

いろいろ参考になる意見が出ていますが、文学作品は、基本は読んで感動してもらうのだと思います。展示は、これまで読んだ作品の面白さが新たに分かるとか、読んでみようかという気にさせるとか、いずれにしても、作品を読むことにつながっていくように工夫していただきたいと思います、例えば、講座は、皆さんが展示を見て読みたい気持ちになるのを、さらに深く読んでみようというのをバックアップしてもらいたいです。このへんは美術館とは違うと思います。

先ほどの説明で、やまなし文学賞の表彰式で、亡くなった津島佑子先生の作品を朗読するのを、西高の生徒さんに頼んだら喜んで受けていただけたとのことですが、例えば、有名作家の作品とか何でもいいのですが、朗読コンクールとかを行ってみると、作品の良さを、どうやって伝えるか工夫することで、作品との関わりが深まるように思います。私の経験でお話ししますと、大学の先輩教授が定年退職ということで、パーティがあったのですが、学生達が「走れメロス」の寸劇をやって、嬉々としていて驚きました。文学作品と関連があるイベントなどで深まりが出ることも考えていただきたいと思います。

それと、突飛な話をするようですが、この文学館ができてずいぶん経ちますが、今では他県にも、同じような文学館がいくつかできてきました。それらと連携ができないか、こちらからは、山梨関連の文学を持って出張する、あるいはツアーを組んで行くとか、逆に来てもらうとか、それぞれの地域での、これまでの取り組みを紹介するので、大きな負担ではないと思います。そんなに簡単ではないかもしれませんが、そんなことも思いました。

会長

最初にお話しされた問題が、一番の問題だと思います。読んで楽しんでもらえるよう持って行く文学館であってほしい、それが本質的なところであろうといった意見でした。それと、各地の文学館と、お互いに連携したら面白いだろうとのことでした。

H委員

いろいろと、意見や質問があります。資料を見ますと、来館者数の経緯のデータはありますが、やまなし文学賞の過去の応募者数と傾向のデータがありませんが、いかがでしょうか。

事務局

具体的な数字は、今持ち合わせていませんが、例年、だいたい同じくらいの応募をいただいています。特に増えたり減ったりはありません。

H委員

審査員の津島佑子さんが亡くなりましたが、いずれ何年か先には企画展を開催することは考えているのでしょうか。将来的に太宰治との親子展というようなこともできるのでしょうか。

事務局

津島先生については、以前に山梨の女性作家を紹介する展示会がありまして、複数の女性作家の中の一人として取り上げたことがあります。先生ご自身にも大きく協力いただいた経緯もありますし、将来的には企画展で取り上げる、山梨ゆかりの作家として大きな候補の一人であることは、間違いないと考えています。

将来的に企画展で取り上げる作家については、複数の候補を持ちながら、どのタイミングでやるのが効果的か図りつつ計画を立てています。津島佑子という作家についても、候補の一人として、検討していきたいと思えます。

H委員

質問がもう一点あります、資料の2ページに、資料の収集・保存・公開について説明がありますが。資料の収集に関して、年度ごとの傾向・方向性は決められているのでしょうか。

事務局

資料の収集に関しましては、収集対象とする本県出身やゆかりの作家の作品、山梨に関わりのある作品をリストアップしながら進めていますが、今年は特にこの作家というようなことはなかなか難しく、具体的な情報として、作家のご遺族と話が進んでいけば、今年はここまで受け入れを進めようとか、今年は整理して来年、公開まで持って行こうとかあります。相手様の考えとか、私どもの予期しないところで、ぼつと話が飛び込んでくることもありまして、きちんと計画どおりに進めることが困難なのが資料収集なのかと思います。

H委員

予想した答えを伺ったと思いますが、なぜこんな質問をしたかといいますと、将来的には、文学館も、本、原稿、手紙だけでなく、デジタルデータ、アーカイブとしては、映像、音、テープなども将来的には、収集し公開していくことになると思います。そういう資料の収集の方針・方策に関しては、短期的ではなく、中長期的にそういうものにどうやって目配せしていくのか、お考えになった方がいいんじゃないかと思いました。

先ほど津島先生の話をしてきましたが、文学館は当然、小中高校生にアピールしていただいているが、ある限られた年齢以上の方しか、なかなか来ないという中で、多くの方に来ていただくことを考えますと、やまなし文学賞は、選考委員に現役の作家3人をお願いしているので、その先生達の記念講演会などで、文学館、文学賞を宣伝するために労をとってもらおうような企画を考えるのも、広告塔としては言葉が悪いですが、審査してもらっただけで終わりではなく、例えば、新作に関する話などあれば、現役の作家が関わっているからには、今現在のリアルな状況を追っかけていくようなことを、山梨県立文学館はやっていますというようなことがアピールできるのもいいかと思えます。

つまり、物故者の資料を集めてきて、それを紹介することも意義のあることですが、文学を読む醍醐味には、今生きている作家の新作を読んで、追っかけて自分が成長するということもあります。若い人たちに授業で村上春樹を取り上げて、また次の作品を読めるといふ話をすると学生達が興味を示します。ですから、山梨ゆかりの作家にも現役の作家はいますから、原作が映像化されるようなことがあれば、講演会をブッキングして、若い人たちの目をこちらに向けることも可能かと思えます。

あと、文学散歩の事業が終了したと説明がありましたが、出前出張講座を行う際の教材として、文学散歩でとりあげるような場所を映像として使うことはあるのでしょうか。つまり、山梨の文学に関連した場所、ものについて映像で残す企画はあるのでしょうか。先ほどテレビ山梨さんから無料でPRも可能とお話がありましたが、たとえば、テレビ山梨さんとタイアップして映像資料を作って教材として使うことも有効かと思いました。

何人かの方が危惧されているように、読むことが楽しいということ、若い人にアピールできれば一番いいんですが、よく言われるように、馬を川に連れて行っても、水を飲むかは分からない、いい資料があっても関心を示してくれるかは分からない。すなわち、読むだけでなく、見ることや聞くこと、小説だけでなく、漫画やアニメや音楽でも何でもいいんですけども、どっかがきっかけになった時に、これを読んでみたい、機会を様々な形で、興味の対象は様々ですから、10人いて10人にアピールできるのは難しいですが、音に敏感な人には音楽によって、例えば、歌人の福島泰樹さんは、短歌絶叫と言って自分の歌に音楽つけてやっていますし、ミュージシャンの中には、中原中也の原詩にメロディーをつけてやっている人もいます。詩のボクシングのように詩を生で朗読することもあり、どっかのチャンネルでひっかかれば、若い人にアピールできるものは様々なメディアの中にあふれていると思いますので、文学館が、そういうものを発信する母体になるということで、先ほど委員の方がお話しされた、ノベルとかヤングアダルトであるとか、いろんなものが、きっかけの一つになることは可能だと思いますので、そういう企画を将来的にチャレンジできればと思います。

あと指定管理者に伺いたいのが、PRについて、県外向けから県内、県民向けにシフトしていくと説明がありましたが、私は、たまたま、甲府市の人口減少に対する地域創生創造に関する委員になって、いくつかの会議にでています。首都圏の新聞を見ていると、山梨の仕事とか、定住、移住、Iターン、Uターン、Jターンなど山梨に関する記事が結構出ています。そういう中に、県や甲府市の主催イベントの紹介もありますから、時期が合えば、県立文学館・美術館で、こんなことをやっていますよと宣伝してもらえれば、仕事や生活だけでなく、文化でも山梨をアピールすることはできるのではないかと、西東京地域というのは、遊ぶことも含めて山梨が視野に入っていて、山梨大学でもそうかもしれませんが、学生は、その辺からも通おうとすれば通えますから、山梨に目を向けてもらうため、県や市に対しても関わりを持つ形で、トータルで山梨を紹介できることを考えたらいかがかと思いました。

会長

様々な観点から、お話を伺いました。太宰の親子展を企画してはどうか、デジタルの資料、映像など人間の六感に訴えるような資料の収集をこれからは考えてはどうか、あるいは、文学賞の審査員に講演をお願いしてはどうか、他にもいろいろな意見がありました。実現できるものは検討していただきたいと思いました。

B委員

2月23日の富士山の日イベントがありまして、会場で配布されたパンフレットに、富士山に関する句集と短歌集がありました。それぞれ100句と100首ありましたが、山梨の人の作品は4名しかなく、静岡の方は沢山ありました。全体の応募件数の割合は分かりませんが、毎年、富士山の日実行委員会があって、来年はどうしようかと検討すると思いますが、今年は去年と違って、この俳句、短歌の応募のことは、私の周囲にも知らない人がほとんどでした。来年もやるか分かりませんが、来年もあ

るなら、文学館と富士山保全推進課と連携して、文学館もPRに一役かってほしいと思いました。山梨からの作品が少なく残念でした。

F委員

私は今年の夏に、初めて山梨に来てまだ半年です。まだ十分な勉強ができていない中で感じたことを述べさせていただきます。今日は皆さんの意見を聞いて勉強になりました。県立文学館の観覧者数の推移を見ると、徐々に減ってきています。今日の皆さんのアイデアを活かしていく必要があると思いますが、やはり広報が大事だと思います。NHKもできるだけ協力してPRしていきたいと考えています。

外から来た人間として見ると、山梨県には、これだけ立派な、美術館、文学館、図書館があるのに、連携が薄いように感じます。先ほど小菅先生もおっしゃっていましたが、山梨の文化のトータルな発進を進めていく中で、文学館が力を発揮できればと思います。

取り組みとしては前例のないものがあれば、私たちマスコミとしても取り上げやすいと思います。

会長

NHKさんも、いままでやったことがないことをやれば、放送してくれるという力強いお話でした。他にどうでしょうか。

様々な意見があり、事務局も大変でしょうか、中長期の計画の中で、取り入れられるものは取り入れながら、文学館の賑わいが今まで以上になればと思います。子供から大人まで、文学館がどのように活用されていくのか、色々な意味で大きな課題だと思います。そして、文化としての山梨という言葉が小菅先生からありましたが、文化を育てるのは時間のかかることですが、文化を誇りにできる県にできれば、それは素晴らしいことだと思います。これからもお力添えをお願いします。

その他に意見がなければ、1号議案、2号議案は承認されたということによろしいでしょうか。

<出席委員拍手をもって承認。その他の意見等もないため、議事を終了>